

市展

第20回亀山市美術展目録

会 期 令和7年3月10日(月)～3月16日(日)
午前10時～午後5時（最終日は午後3時まで）

会 場 亀山市文化会館大ホールロビー
亀山市中央コミュニティセンター

主 催 亀山市
後 援 亀山市芸術文化協会、公益財団法人 亀山市地域社会振興会、
公益財団法人 岡田文化財団

目 次

○入賞作品紹介・審査評

絵 画	1
写 真	3
書	5
彫刻・工芸	7

○かめやま文化年2024特別展示

亀山市名誉市民 中村晋也 作品展	9
亀山市文化大使 上田秀洋 作品特別展示	11

○いが・こうか・かめやま 美術展交流作品

12

○出展作品一覧

14

○第20回亀山市美術展について

18

○入賞作品紹介・審査評

絵画



市長賞

「冬、亀山橋より」山田 いづみ



議長賞

「cry」寶土 利貴



教育長賞

「青の音源」近澤 さとみ



芸術文化協会会長賞

「冬日」原 さだ代



地域社会振興会賞
「牡丹」佐野 恵子



岡田文化財団賞
「紫陽花の息吹」森田 学

審査評

どの作品も魅力にあふれていて、審査員全員悩みました。どの作品も個性があり、どの価値観をとるかで選ばれる作品も変ってきたのではないかと思います。展覧会は、会場芸術といわれるように、家庭で観る絵とは違う価値観が求められます。今年度の審査はこのようなになりましたが、ぜひ続けていただき、個性ある表現を伸ばして、また次年度も作品をみせていただければと思います。

市長賞の「冬、亀山橋より」は、タイトルが示すとおり、地元の風景に魅せられ、描かれたことに、とても好感がもてます。色合いや構図とともに、遠近感や澄みきった空気感も表現され、確かな技術力が感じられます。

議長賞の「cry」は、心の内面を強く表現し、世の中に訴えかける作品になっています。

教育長賞の「青の音源」は、おぼろげな青春の様々な想いを鉛筆で真摯に表現しています。

芸術文化協会会長賞の「冬日」は、補色を上手く使い、力強く良い構成になっています。

地域社会振興会賞の「牡丹」は、牡丹の花の魅力を画面いっぱいに表現されています。

岡田文化財団賞の「紫陽花の息吹」は、確かな描写力を生かし、リアリズムを追求した素晴らしい作品です。

絵画部門審査員

岡林 まち子

小林 正英

山崎 和夫

写真



市長賞

「継がれる段影」 小林 努



議長賞

「漁港スケッチ」 池山 康夫



教育長賞

「御挨拶」 西村 幸子



芸術文化協会会長賞

「ある日の思い出」 山崎 一博



地域社会振興会賞

「風化に耐えた足跡」 宮崎 観峰

岡田文化財団賞

「彼女の日常」 梅村 美奈子

審査評

出品全体のレベルが高く、本展への想いを写真から感じました。撮影技術が優れた写真、視点の優れた写真、見せ方のうまい写真などバリエーション豊かで、甲乙つけがたい作品が揃いました。なかでも見え方が印象的でテーマがしっかり伝わってくる写真を上位に選びました。

今後は、もっと斬新な表現にトライした作品が応募されることを願っています。

また、出品数がやや少ないと感じるので、新規応募者の増加を図り作品のレベルアップを期待します。

市長賞の「継がれる段影」は、対象の配置と光と色調がすべて調和し、とても神秘的な雰囲気を持つ作品となりました。このシャッターチャンスをつかめるテクニックとセンスは、とても高度なものと感じました。

議長賞の「漁港スケッチ」は、海辺の作品を的確に4枚の組写真としています。

教育長賞の「御挨拶」は、舞妓の表情を的確にとらえた、古都の印象深い作品です。

芸術文化協会会長賞の「ある日の思い出」は、美しい夕焼けと子どもの姿に視線が引き込まれます。

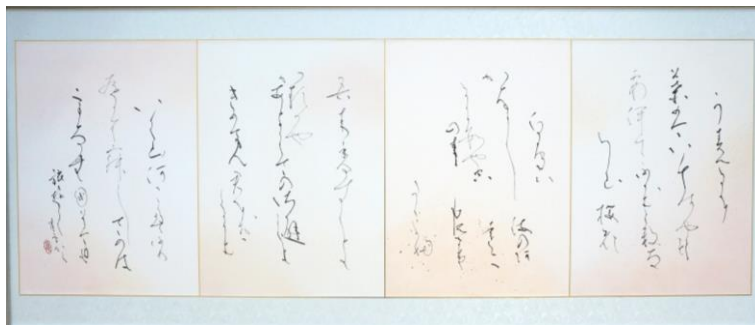
地域社会振興会賞の「風化に耐えた足跡」は、見え方が印象的で優れた表現力を感じます。

岡田文化財団賞の「彼女の日常」は、子どもの日常生活の表情を的確にとらえた素晴らしい組写真の作品です。

写真部門審査員 石井 清 木村 一成

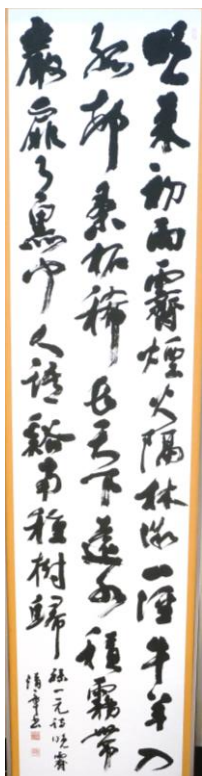
※今回の写真部門は、諸般の事情により2名の審査員での公開審査となりました。

市長賞「岑參詩」黒宮 千聖

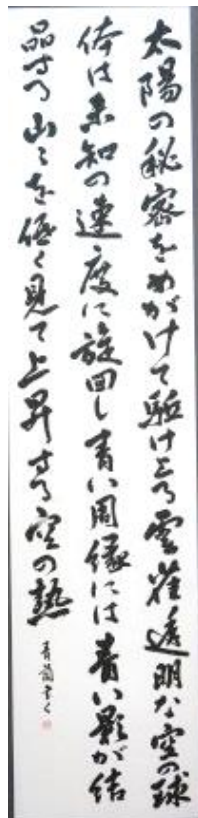


議長賞
「牧水の歌」 櫻井 育子

教育長賞「孫一元詩」竹田清章

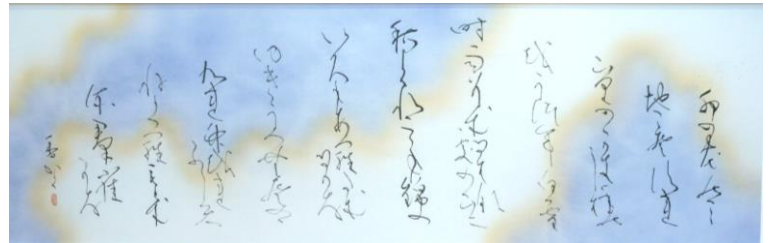


芸術文化協会会長賞「竹内勝太郎の詩」山本 青蘭





地域社会振興会賞 「薛道衡詩」 阿久津 研道



岡田文化財団賞
「うの花の」 田中 香

審査評

数はやや物足りなさがありますが、多彩で力量にあふれた作品が多く、全ての作品が秀逸であったように思います。書道は長い歴史の中で多くの能書家によって熟されてきました。そのエキスを私達は享受しています。そのエキスを自分の栄養素として作品に生かすことが、書道芸術です。学ぶ事も楽しみとして、又次回も是非出品していただければと願っています。

市長賞の「岑参詩」は、康有為の技法、書風を見事に取り入れつつ昇華された素晴らしい作品です。更に高みを目指せる才を感じます。

議長賞の「牧水の歌」は、散らしが新鮮で、墨の潤渇が美しく見せ場があります。

教育長賞の「孫一元詩」は、線の強弱があり、余白がよく効いた作品となっています。

芸術文化協会会長賞の「竹内勝太郎の詩」は、最後まで淀みなく全体をよくまとめています。

地域社会振興会賞の「薛道衡詩」は、線の強弱、文字の大小をうまく生かした作品です。

岡田文化財団賞の「うの花の」は、文字の造形、組立を考慮し、勢いのある線で伸びやかに書かれた作品です。

書部門審査員

伊藤 南邨

永平 巳旺子

樋口 鈴峰

彫刻・工芸



市長賞
「陶箱」堀川 峰男



議長賞
「源氏物語への誘い」渡辺 香里



教育長賞
「能面 長霊癒見」高知 利壽



芸術文化協会会長賞
「五十三次 勢州七景」黒田 智子



地域社会振興会賞
「春雪」坂本 祥子



岡田文化財団賞
「舞う」廣森 ちな子

審査評

前回に比べ、力作が多く出品されておりました。審査の方法としては、「用と美」を兼ねて、更に作者の意気込みが感じられる作品を賞に選びました。とりわけ、市長賞の「陶箱」は、色調、形、使い勝手が良く、即使用いたくなる作品でした。「好きこそものの上手なれ」と申しますが、上達のコツは、好きで楽しくものづくりを続けることでもあります。今後の作品に期待します。

市長賞の「陶箱」は、土と炎で作り出された秀作です。高い温度で溶けた釉薬の美しさと土の持つ肌合いがよくマッチし、また実用品としても素晴らしく、陶芸の魅力あふれる作品となっています。

議長賞の「源氏物語への誘い」は、見ている人を楽しくさせてくれる素晴らしい作品です。

教育長賞の「能面 長霊癒見」は、細部まで忠実に再現された秀作です。

芸術文化協会会長賞の「五十三次 勢州七景」は、伝統工芸の型紙を使い、全体のバランスがとても良い作品です。

地域社会振興会賞の「春雪」は、タイトル通り、山の雪が消えてゆき、春の芽吹を待つ様子が良く表現された作品です。

岡田文化財団賞の「舞う」は、ガラスアートの特性である透明感をうまく生かした作品です。

彫刻・工芸部門審査員 上原 正廣 熊本 栄司 恒岡 光興

○かめやま文化年2024特別展示 亀山市名誉市民 中村晋也 作品展

展示会場：亀山市立図書館 文化情報プラザ 展示期間：3/10（月）～3/23（日）



「ミゼレーレⅠ」

制作 平成7（1995）年

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起こり日本中に衝撃が走りました。瓦礫の中から火が噴出し、一面に燃え広がる情景をテレビで見た中村の脳裏には、空襲で木っ端みじんに破壊され、焼け焦げて廃墟と化した終戦当時の日本の様相が蘇ってきたと言います。「何かできることは」と悶々とする中村にふと舞い降りた姿がありました。ミゼレーレ（哀れみたまえ）は、簡素な布を纏った人が、悲しみをすくいあげて昇天するかのような優しさに溢れた作品です。激震地の地下鉄駅に設置され、今でも静かに人々の哀しみを慰めています。

（提供 公益財団法人中村晋也美術館）



「ミゼレーレ-Lacrymosa（涙の日）-」
制作 平成 14（2002）年
特別協力 公益財団法人中村晋也美術館

阪神淡路大震災から 30 年が経ちました。テレビに映し出された未曾有の惨事に衝撃を受けて生まれたのが中村の「ミゼレーレ」シリーズでした。自らも体験した終戦直後の焦土と化した日本の情景がフラッシュバックしてきたといいます。この作品はミゼレーレシリーズの一つで、モーツァルトが最後に作曲した「レクイエム」の中にある「ラクリモーサ」の美しい旋律から着想したものです。差し伸べた手に「救済」「哀悼」「慈愛」「復活」などが込められ、涙の日に寄り添っているかのように。

（提供 公益財団法人中村晋也美術館）

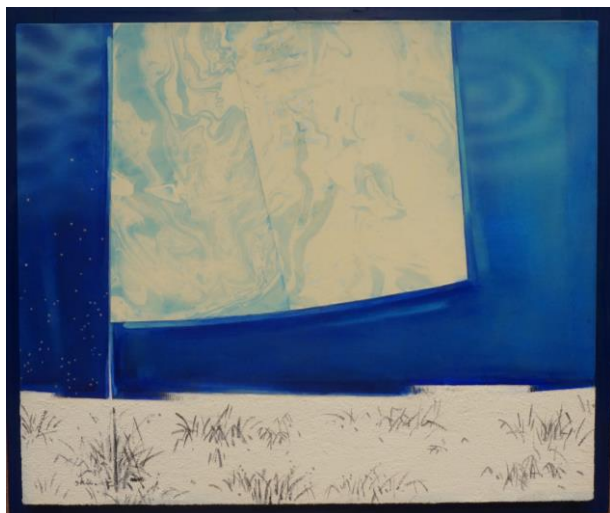


「森鷗外」
制作 昭和 57（1982）年
特別協力 公益財団法人中村晋也美術館

中村晋也と北九州市との縁を繋いだ一人の女子学生がいました。北九州市出身の彼女は、中村から彫刻を学び、卒業後も故郷で彫刻家を志し、中村もその将来を嘱望していました。しかし、1978 年、彼女は 25 歳の若さで急逝してしまいます。その後、彼女の遺作を市に設置するなど尽力してくれた当時の北九州市長、谷伍平氏と出会い、その温厚篤実な人柄にすぐに意気投合した中村は、新しい北九州市の街づくりに文化面から協力することになりました。北九州市小倉には、明治の文豪、森鷗外（本名・林太郎）が、明治 32 年、第 12 師団軍医部長として赴任し、約 1 年半住んでいた家が「森鷗外旧居」として残っています。この旧居の庭に設置されているのが中村制作による森鷗外胸像です。

（提供 公益財団法人中村晋也美術館）

亀山市文化大使 上田秀洋 作品特別展示



「青の風景 A」



「青の風景 B」



「花のある風景 椿」

モチーフは、名所旧跡等々美的な様々なものが考えられますが、ミニマルな価値はこの視点から何もない風景、雪の原をモチーフにする中でその背景にある「生命感」そして人間の描く行為の中の「生命感」から、マキシマルな価値を「生命感」に見出した。そこで「水」や「大気」に象徴される「青の風景」が重要な課題となった。生命感の中で、「青」に象徴されるピュアな生命感、あらゆる未来に対応できる「原初的な生命感」が第一のテーマとなった。その事から、花も青の「朝顔」の絵が多い。今回は、椿ですが！

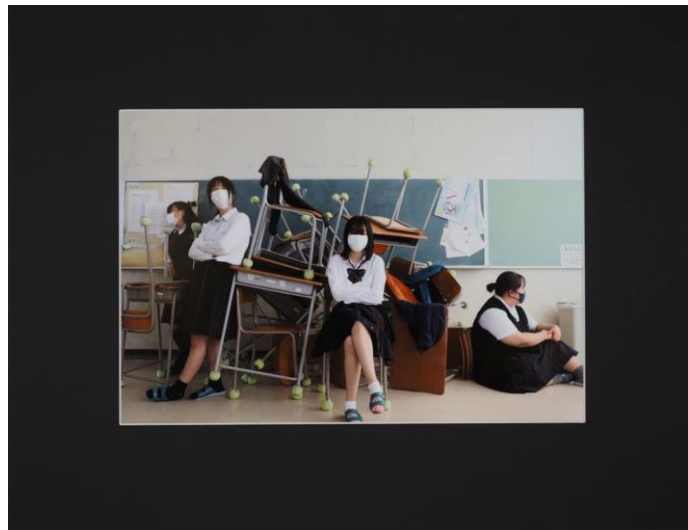
一方、小品については、「感性の断片」としての価値付けを行い、「青の風景」の他に様々なものもモチーフにしています。

(提供 上田 秀洋)

○いが・こうか・かめやま 美術展交流作品
(伊賀市)



市展「いが」賞 絵画部門
「崩れる街並みー暮らす命」 森川 隆夫



市展「いが」賞 写真部門
「卒業」 小西 由莉



市展「いが」賞 彫塑工芸部門
「羽ばたき」 森内 隆

(甲賀市)



甲賀市展賞 平面部門
「生きねば(知覧より)」 土山 道夫



甲賀市展賞 写真部門
「パリで花開け」 小森 光司



甲賀市展賞 工芸・立体部門
「家族時計」 朝見 杏映



甲賀市展賞 書部門
「漢詩」 林 京子

○出展作品一覧

【絵画部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	山田 いづみ	冬、亀山橋より	安知本町
議長賞	寶土 利貴	cry	田村町
教育長賞	近澤 さとみ	青の音源	関町萩原
芸術文化協会会長賞	原 さだ代	冬日	田村町
地域社会振興会賞	佐野 恵子	牡丹	南崎町
岡田文化財団賞	森田 学	紫陽花の息吹	みどり町
入選	小坂 誠二	ほろ酔い	布気町
入選	名越 悦子	潮鳴り	栄町
入選	生駒 清子	巣立ちの日待ってるよ	羽若町
入選	今田 雪峰	ふるさとのギャラクシーを見上げて	鈴鹿市
入選	坂 裕文	古里	東台町
入選	林 正夫	戦禍【Ⅲ】	アイリス町
入選	杉本 陽子	「あそぼ? いいよ!」	南野町
入選	片岡 弘子	おい 母さん	関町泉ヶ丘
入選	村田 円莉子	老鷹之歌	両尾町
入選	澤田 清隆	叢雲	加太神武
入選	曾和 亜紀	月と満	布気町
入選	原 君子	家族	田村町
入選	伊藤 和美	小春日和	本町二丁目
入選	松田 純一	コモドオオトカゲ	野村三丁目
入選	那須 幸生	夕暮れ時	野村三丁目
入選	堤 明美	緑の世界へ	川崎町
入選	森 有理子	流光	東御幸町
入選	豊田 志乃	宝人	阿野田町
入選	小池 勇	悠久	本町三丁目
入選	所 啓子	石山観音	上野町
入選	葛西 徹	流れに向かって	長明寺町
入選	山本 美香	風	菅内町
入選	竹尾 千寿子	金魚と壺&トーテンポール	野村三丁目
入選	石谷 長生	合掌 Ⅱ	東御幸町
入選	斎藤 政子	ぬくもり	鈴鹿市
入選	長廻 武志	奇岩	伊勢市
入選	神野 魁	ワクワク・ドキドキ	川合町
入選	中西 勝	初夏の煌めき	野村一丁目
入選	豊田 幸汰	人物	阿野田町
入選	松尾 徳昌	遥るかな空	下庄町

(絵画部門)

入賞・選名	作者名	題名	住所
入選	豊田 恵知	あっ、おいしそう	阿野田町
入選	田中 力睦	Toki	みずほ台
無鑑査	日當 優子	海月	みずほ台
無鑑査	田口 眞佐子	薄暮の空間	上野町
審査員	山崎 和夫	月光	鈴鹿市
審査員	岡林 まち子	果ての果てへ	津市
審査員	小林 正英	深遠の風光	四日市市
運営委員	中田 勝彦	遠州牡丹	南野町

【写真部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	小林 努	継がれる段影	北町
議長賞	池山 康夫	漁港スケッチ	津市
教育長賞	西村 幸子	御挨拶	井田川町
芸術文化協会会長賞	山崎 一博	ある日の思い出	加太神武
地域社会振興会賞	宮崎 観峰	風化に耐えた足跡	両尾町
岡田文化財団賞	梅村 美奈子	彼女の日常	鈴鹿市
入選	佐野 昌之	日常	小川町
入選	井上 英勝	豪炎	大岡寺町
入選	小野 俊男	恵と欲	本町三丁目
入選	河原田 誠教	ランチタイム	津市
入選	笠井 俊夫	アートな階段	関町坂下
入選	櫻井 信也	ある朝の光景	天神一丁目
入選	山川 充子	ファミリー	鈴鹿市
入選	伊藤 隆彦	仲良し	鈴鹿市
入選	森崎 進	願い届け	加太向井
入選	滝本 麻須美	11 時間 04 分 30 秒の軌跡	関町坂下
入選	滝本 洋一	夜明け前	関町坂下
入選	豊田 康文	旭日	菅内町
入選	伊藤 隆	思いを込めて	菅内町
入選	瀬永 千恵子	磯遊び	関町木崎
入選	阿部 充博	出番前	みずほ台
入選	サリー	こもれび	加太北在家
無鑑査	井上 アヤ子	我が道を行く	みどり町
無鑑査	村田 芳男	諸行無常	関町新所
審査員	石井 清	港のノラ	伊勢市
審査員	中西 一夫	フェイス	鈴鹿市

(写真部門)

入賞・選名	作者名	題名	住所
審査員	木村 一成	矢先	岐阜県可児市
運営委員	平野 武	里山の朝光	椿世町

【書部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	黒宮 千聖	岑参詩	北山町
議長賞	櫻井 育子	牧水の歌	本町二丁目
教育長賞	竹田 清章	孫一元詩	栄町
芸術文化協会会長賞	山本 青蘭	竹内勝太郎の詩	みどり町
地域社会振興会賞	阿久津 研道	薛道衡詩	辺法寺町
岡田文化財団賞	田中 香	うの花の	辺法寺町
入選	櫻井 花筵	仙遊潭 蘇軾	井尻町
入選	川上 春琴	朱熹詩	管内町
入選	森本 春香	黄庭堅詩	津市
入選	豊田 愛華	乾いた路	阿野田町
入選	大杉 花芳	王子禪詩	布気町
入選	江藤 千穂	Mr. Children ヒカリノアトリエ	川崎町
入選	伊藤 隼子	ゲーテの言葉	江ヶ室一丁目
入選	高橋 慶水	柳宗元詩	みどり町
入選	菅生 洋子	正岡子規の歌	アイリス町
入選	篠原 蕙風	孟浩然詩	下庄町
入選	岡田 静嶺	孟浩然詩	津市
無鑑査	畑中 花影	陳文術詩	椿世町
無鑑査	堀田 花	雲ふたつ	東丸町
審査員	樋口 鈴峰	四海寧	鈴鹿市
審査員	伊藤 南邨	楊一清句	桑名市
審査員	永平 巳旺子	芭蕉 冬	員弁郡
運営委員	安藤 清舟	萬象含一點	みどり町

【彫刻・工芸部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	堀川 峰男	陶箱	鈴鹿市
議長賞	渡辺 香里	源氏物語への誘い	和田町
教育長賞	高知 利壽	能面 長霊癒見	みずほ台
芸術文化協会会長賞	黒田 智子	五十三次 勢州七景	和田町
地域社会振興会賞	坂本 祥子	春雪	みずほ台

(彫刻・工芸部門)

入賞・選名	作者名	題名	住所
岡田文化財団賞	廣森 ちな子	舞う	白木町
入選	西川 るみ子	お内裏とお雛様	川合町
入選	田所 正敏	浮気	関ヶ丘
入選	石原 孝	感謝（ありがとう）	阿野田町
入選	貝原 靖英	コーヒーカップ	みずほ台
入選	近藤 義則	茄子と葡萄	みどり町
入選	三谷 あい子	親王飾り	太岡寺町
入選	古川 宏	黒陶筒花入れ	愛知県名古屋
入選	井上 一男	茶碗	阿野田町
入選	服部 恭子	雪月花	若山町
入選	渥美 明日香	龍	三寺町
無鑑査	岡本 利見	銅板 つぼ	和田町
無鑑査	山田 風雅	人間用炭酸乾電池	天神二丁目
審査員	恒岡 光興	紫紅釉広口壺	伊賀市
審査員	上原 正廣	私たちの出番です	鈴鹿市
審査員	熊本 栄司	圧（Pressure）	四日市市
運営委員	後藤 正博	令和のモアイ	東御幸町

伊賀市

(敬称略)

賞名	作者名	題名
市展「いが」賞 絵画部門	森川 隆夫	崩れる街並みー暮らす命
市展「いが」賞 彫塑工芸部門	森内 隆	羽ばたき
市展「いが」賞 写真部門	小西 由莉	卒業

甲賀市

(敬称略)

賞名	作者名	題名
甲賀市展賞 平面部門	土山 道夫	生きねば（知覧より）
甲賀市展賞 工芸・立体部門	朝見 杏映	家族時計
甲賀市展賞 書部門	林 京子	漢詩
甲賀市展賞 写真部門	小森 光司	パリで花開け

○第 20 回亀山市美術展について

《出展状況》

部 門	出品数	展示作品数						
		入選	無鑑査	審査員	特別出展	美術展 交流	運営委員	合計
絵 画	38	38	2	3	3	2	1	49
写 真	22	22	2	3	0	2	1	30
書	17	17	2	3	0	1	1	24
彫刻・工芸	16	16	2	3	3	2	1	27
合 計	93	93	8	12	6	7	4	130

※ 第 2 回亀山市美術展以降、同部門で市長賞を 2 回受賞された方は 5 年間無鑑査となります。

※ 彫刻・工芸部門には、第 9 回亀山市美術展より陶芸を含みます。

※ 入選者数に、入賞者数（6 賞）を含みます。

《審査員及び運営委員》

審 査 員

【 絵 画 部 門 】 山崎和夫・岡林まち子・小林正英
 【 写 真 部 門 】 石井 清・中西一夫・木村一成
 【 書 部 門 】 樋口鈴峰・伊藤南邨・永平巳旺子
 【彫刻・工芸部門】 恒岡光興・上原正廣・熊本栄司

運 営 委 員

【 絵 画 部 門 】 中田勝彦
 【 写 真 部 門 】 平野 武
 【 書 部 門 】 安藤清舟
 【彫刻・工芸部門】 後藤正博

※目録氏名は敬称を略しました。

